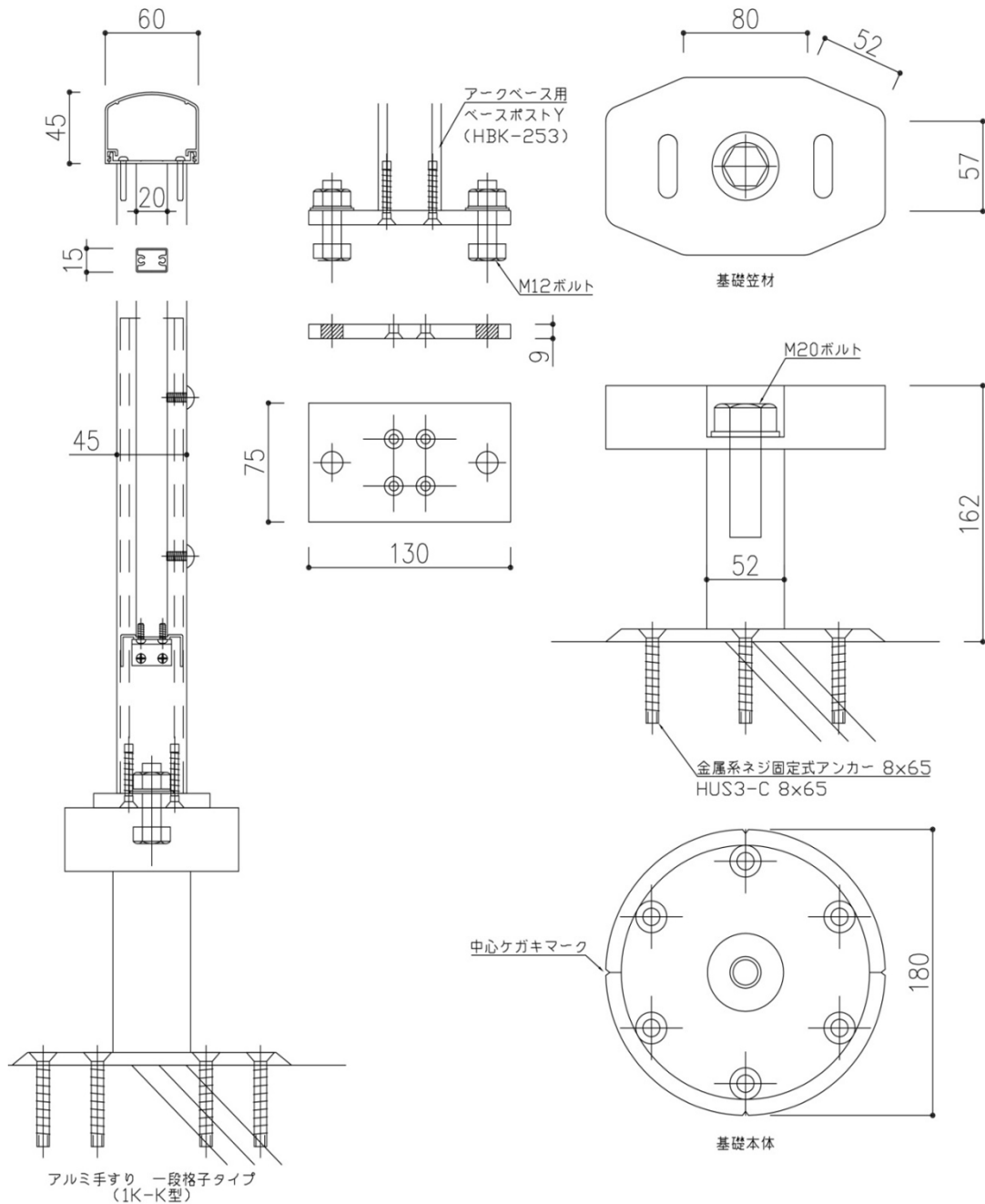


アルミ手すり 露出防水用 ルーフスチール基礎 施工手順書

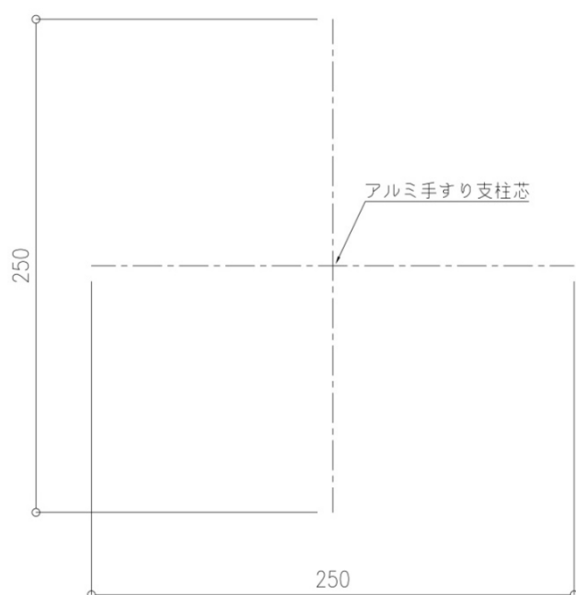
アーチベースV

Ver1.2021.08



墨出し・取付け

- ①取り付けるアルミ手すりの、支柱芯の位置を承認図に従い墨出して、250mm×250mm程度の十字にマーキングしてください。



- ②十字にマーキングした支柱芯墨に、基礎笠材を取り外したアークベース本体の中心、ケガキマークを合わせ、アンカー位置に印をつけてください。
- ③アンカーの穴をスラブに開ける場合に、6穴の内、2穴以上鉄筋に当たって穴が穿けられない時は穴位置をずらして穿け直してください。
アークベース1ケにつき最低5穴必要、スラブ筋は切断しないでください。
(下孔φ8mm、深さ60mm)
- ④専用アンカー（ヒルティ「ねじ固定式金属系アンカー」HUS 3-C 8×65）で留め付けます。
アークベースの倒れ調整は、専用スペーサーで調整してください。
厚みは「1mm、2mm、3mm」の3種類。（調整は1枚まで）
- ⑤防水終了後、笠材をM20ボルトで取り付けてください。
- ⑥アークベース取り付け後、笠材のレベルを実測して、手すり支柱の長さを工場加工します。
- ⑦支柱補強材（ベースポストY「HBK-253」）付アルミ手すりをM12のボルト（2本）で固定します。
固定時の倒れやレベル精度が悪い場合は、SUS製のスペーサー等を笠材とHBK-253の間に挟み調整してください。

特に注意すること

- ・スラブ配筋は切断しないでください。
- ・アークベース1台に対して固定アンカーは、手すりの強度上、最低5本必要となります。
- ・アークベースは押えコンクリートにも取り付け可能ですが、コンクリート厚は90mm以上必要となります。
- ・縦格子手すり、手すり高さH=1000mmの場合の支柱間隔は≒@1200となります。
(自社基準)
- ・ルーバータイプ等の風圧を受ける手すりタイプの場合はご相談ください。
- ・アークベース取り付け位置や、水勾配によって下柵下の空きが大きい場合は、くぐり止め等の対策が必要になります。